

愛教大の「いま」にであえる情報誌



国立大学法人

愛知教育大学

AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

AUE Letter

AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

あゐる

VOL.3

2020
SUMMER

特集

野田新学長に訊く！
若手職員による学長インタビュー



野田新学長に訊く！ ～若手職員による学長インタビュー～



愛知教育大学では2020年4月に第13代学長に野田敦敬氏が就任しました。野田新学長は学部・大学院とも本学で学んだ同窓生でもあり、名古屋市公立小学校で14年間教壇に立った教員経験者でもあります。新学長はこれからの本学の舵取りにあたって、何を思い、どう取り組んでいくのか。新進気鋭の若手職員がインタビューを行いました。

野田敦敬新学長とは

■ まずは野田学長の経歴について教えてください。

本学で学部・大学院と6年間お世話になり、その後、夢であった名古屋市の小学校の教員として14年間勤めました。今でも、小学校教員時代の教え子と、年賀状を通じて、また、直接会ってやりとりしています。一番年長は47歳ですが、立派にそれぞれの人生を切り拓いている姿に接すると教員という職に就いてよかったと思います。

大学の教員には正直なるつもりはなかったのですが、37歳のときに大学の指導教員から「生活科という新しい分野で公募があるので応募してみても」と言われました。当時は教員としてすごく面白い時期だったため、最初は断ったのですが、校長に相談したところ「相談するということは行きたい気持ちがゼロではないのだから、あのとき、あちらを選択しておけばよかったかと思うながら教員を続けるのはマイナスだ。応募したって100%なれるわけではないのだから、やってみろ」といわれて応募することとなりました。後日、合格を知らされ驚きました。自信がなくて、同じく教員の妻に相談したところ、「どうなっても、私がなんとかするから、やってみたら」と言われました。それ以来、頭があがらないですね（笑）

■ 卒業生ということで本学の学生にどのような育ちを期待されていますか。

私が学生のころは、自由な時間に部活動やアルバイトをしたり、みんなでおもしろい企画をしたりして過ごしていました。

20年ほどゼミの学生と接する中で、年を追うごとに、自立度が下がってきているような気がします。反面、保護者の方の大学教育への関心や要望が高まっています。就職の際も決められずに迷ってしまう学生も多い

ように思います。人生の先輩である保護者の方の意見を聞くことはもちろん大切ですが、一度きりの自分の人生ですから、自分で決めて自分で歩めるようになる4年間にしてほしいと思います。

未来に向けた教員養成

■ 2018年に文部科学省から「2040年に向けた高等教育のブランドデザイン(答申)」が示されました。今後の教員のあるべき姿について、どのようにお考えですか。

20年後は我々が描いている未来よりもずっと進歩していると考えられます。よく現職の先生方から聞く言葉は、「やらなくてはならないことは何も減らないのに、身に付けなければいけないことは、英語だ、ICTだとどんどん増えていく」ということです。次から次へと教育現場にふってきて、余裕がなくなっているのが現状です。このような中、これから本当に何が必要なのかを「見通す力・見極める力」を養うことが必要です。20年後の教育がどうなっているのかについて自分の考えを持ち、そしてそれがどの程度正しい



NODA Atsunori

学長 野田 敦敬

1958年生まれ。名古屋市出身。

教育学修士（愛知教育大学）

専門：生活科教育、総合的学習

日本生活科・総合的学習教育学会会長



■インタビューー

KAWAJIRI Nao

企画課 河尻 直

のかについて、インターネット、書籍、直接体験、意見交換など、偏ることなく多様な窓口をもって情報を集め、考えを修正し、未来を見極め、「これは本当に大事だ、20年後にも必ず役に立つ」と思うことを重点的にやっていくべきです。そうでないと手を広げすぎて何がなんだか分からなくなってしまうでしょう。本学も情報を集める、直接体験をすることができるカリキュラムになっていますので、学生には見極める力を培い行動してほしいと思います。

教職大学院の拡充

■ 教員養成の高度化のため、本年4月に大学院の改組を行い、新しい大学院がスタートしました。

本学は教職大学院に舵をきりました。この充実が私の使命です。

私は教育実習に行って自分自身を「全然勉強ができていない」と感じ、もっといろいろな授業を見てから、自分なりの授業観をもって教員になるべきだと考えるようになりました。当時はちょうど理科の大学院ができたところで、大学院進学を考えました。母からは反対されましたが、父が「人生は一度きりなのだから自由にやれ」と認めてくれました。進学して全国の授業を見に行きましたし、附属岡崎小学校で週3時間の理科の非常勤講師を1年間する機会に恵まれました。理論を学び、授業を見て、こんな理科の授業をしてみたいという具体的なイメージを持つことができました。実際に教員になってすぐの授業はうまくはいきませんでしたが、理想とする授業の具体的なイメージがありましたので、どこがいけないのかを振り返ることができ、一步一步近づくように努力できました。

学部から直進で進学する学生さんにとっては、教職大学院は多くの実習の機会があります。実習校で授業を見たり、自分で実践したりして、理想とする授業の具体的なイメージを持って修了し、教員になってほしいと思います。そうすれば、必ずいい授業に向けて歩むことができます。

2020年4月 大学院改組

学校教育における課題が複雑化、多様化する今日、教員にはより高い資質・能力が求められています。本学では、この要求に応えるため、2020年4月に大学院の改組を実施しました。



教職大学院を拡充して、教育学研究科に一本化し、より実践的で高度な教育を提供して教員養成をリードしていきます。

教育学研究科

教育実践高度化専攻 (教職大学院)

- 学校マネジメントコース
- 教科指導重点コース
- 児童生徒発達支援コース
- 地域・教育課題解決コース

相互履修

教育支援高度化専攻 (修士課程)

- 臨床心理学コース
- 日本型教育グローバルコース

また、現職で進学される皆さんは、それぞれ課題を持って進学して来られます。現職の先生方は、日々課題を持っていますが、目の前のことに追われて資料を集めることすら難しい状況だと思います。教職大学院で1年間、心のゆとりをもって課題に向き合い教育観を見直すことが、その後の教員生活を豊かなものにしていく機会になります。そんな1年間にぜひいただきたいし、スタッフも全力でそのサポートをいたします。

地域・行政・企業との連携

■ 本学は地域貢献の大学でもあります。地域、行政、民間企業との連携についてお聞きかせください。

前学長時代に愛知県内のほとんどの教育委員会や近隣市、いくつかの私立大学、企業などと協定を結びました。これまで、連携を広げる段階でしたが、これからは、深める段階にしていきたいと思っています。大学は連携先に何を提供できるか、連携先は大学に何を提供できるかを、聴き合うところからじっくり深めていきたいと思っています。

具体的には、各地域で総合計画を作る時期になっていますので、そこに参画していきたいと思っています。例えば私自身、刈谷市の総合計画審議会の会長を引き受けており、その政策に本学ができることを提案しています。また、本学の教員にはそれぞれ得意分野がありますので、それを生かしてこのコロナ禍の子どもの過ごし方をテレビで解説したり、教科書採択にあたっての勉強会の講師を引き受けたりしています。得意分野を持つ教員を送り込むことが、本学が連携先に提供できることのひとつです。



■インタビューー

SHIBAYAMA Mai

教務企画課 柴山 麻衣

教員の魅力を伝える -新学長としての抱負-

■ 最後に、改めて新学長としての抱負・意気込みについてお聞かせください。

本学は今も昔も全国屈指の教員養成大学ですが、残念ながら教員になりたい若者が年々減ってきていますので、教員の魅力を発信し回復させていきたいと思っています。

本学では、教育を支える心理職、福祉職、行政職の養成も始めていますが、それらの職に就く学生さんにも、教員の魅力を知った上で目指す職に就いてほしいと思います。それが本学の強みですし、そうすることで本当の意味での「チーム学校」となると 생각합니다。

ゼミの卒業・修了生に、私が贈る最後の言葉は、「4月になってあなたが担任する子どもの中で、あなたの姿を見て、『教員になりたい』と思う子を毎年1人でよいので育ててほしいです。『教え子が愛教大に入りました』『教員になりました』という連絡を聞くと『よし、でかした』と思います。私にとって教員の魅力は人の生き方に関われること、そして卒業後も相談に乗るなどして、教員としてずっと関わっていただけることです。

高校生が進学したくなるような魅力的な授業科目をそろえ、授業方法の改善に努めていく必要もあります。本学ではカリキュラムを見直し、直接体験を多く積んで教員になれるようにしましたのでその発信をしていかなければなりません。任期中に、教員の魅力回復、教育現場の改善・向上に向けて全学をあげて努めていきたいと思っています。

■ 本日はどうもありがとうございました。

研究室訪問

社会科学教育講座

阿部 亮吾 准教授

人文地理学(都市地理学)

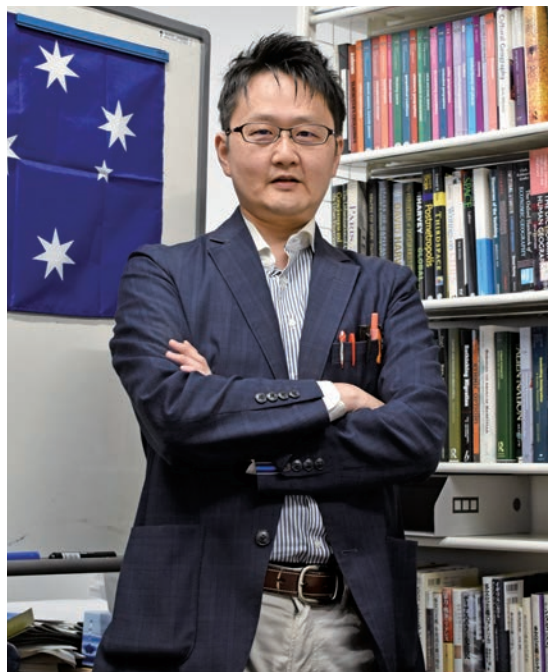
研究の面白さを教えてください

私の専門分野は「人文地理学」です。「あなたはなぜ山に登るのか?」と尋ねられて「そこに山があるからだ!」と答える禅問答をよく耳にしますが、地理学者なら、「なぜそこに山が形成され、山の向こうにはどのような村落が広がり、そこでは人々がどんな暮らしをしているのかを知りたいからだ!」と答えるでしょう。人文地理学とは、そんな私たち人間の作り出した「社会」を「空間」の視点で探究する学問ですが、私の場合、特に「都市」そのもの到大変興味があり、また都市を生きる「異国の人々」、つまり「外国人」を取り巻く都市空間を研究してきました。多文化共生や多文化主義を成立させる都市の条件についても研究していますよ。主なフィールドは名古屋市とオーストラリアのシドニーですが、シドニーに行くようになったのは、オーストラリアが移民と多文化主義の国であり、街中に外国人があふれていてとてもワクワクしたからです。

研究の道を志したきっかけは何ですか

私がこのような地理学の道に進んだ直接のきっかけは、実は同じく地理学者である父親の影響ですが、私は小学生の低学年から世界地図を何も見ずに模写できましたし、帰り道の分からない街で家族とはぐれてしまっても、1人で1時間かけて徒歩で帰宅できるなど、今から思えば何か不思議な力で地理学の世界に導かれていたのかもしれない。

都市は人類が作り出した最高傑作です。都市を学び、都市で学ぶ楽しさを体感してほしいですね。



愛教大生ピックアップ!

第15回大学生協読書マラソン・コメント大賞でアカデミック賞受賞

初等教育教員養成課程

国語選修 森 優子さん

「今まで、歴史を学ぶ意味がよくわからなかった。でも、この本に出会い、その本当の理由が分かった気がした」―第15回大学生協読書マラソン・コメント大賞でアカデミック賞を受賞した森優子(もりまさこ)さんのコメントです。宇都宮健児著『天皇制ってなんだろう?』(平凡社、2018)を読んで記しました。

読書マラソンは、学生が自分が読んだ本にコメントをつけながら継続的に読書する取り組みで、大学生協が「大学4年間で本を100冊読もう!」を合言葉に進めています。森さんは入学以来、読書マラソンを続けてきましたが、コメント大賞への応募は今回が初めてでした。軽い気持ちでの応募だったため、応募総数1872通の中からの受賞となって、うれしさの反面、驚きが大きかったそうです。

普段の読書では小説が中心という森さん。その合間に歴史や心理学など他のジャンルの本にも挑戦しています。さまざまな知識や考え方に触れることができとても面白く、他の場面でそれらが結びつくとき、読んでよかったと思うそうです。『天皇制ってなんだろう?』には、現代に生きる我々が考えるべきことが書いてあり、新しいものの見方や考え方を得ることができたため、「私が伝えるなら、この本のコメントだ」と思って取り上げました。

今回の受賞を受け、「受賞は、私の言葉を他の人に伝えられる可能性を示してくれたように思います。これからも読書続け、伝えたいことを書いていきたいです」と話しています。

受賞は、私の言葉を他の人に伝えられる可能性を示してくれたように思います。



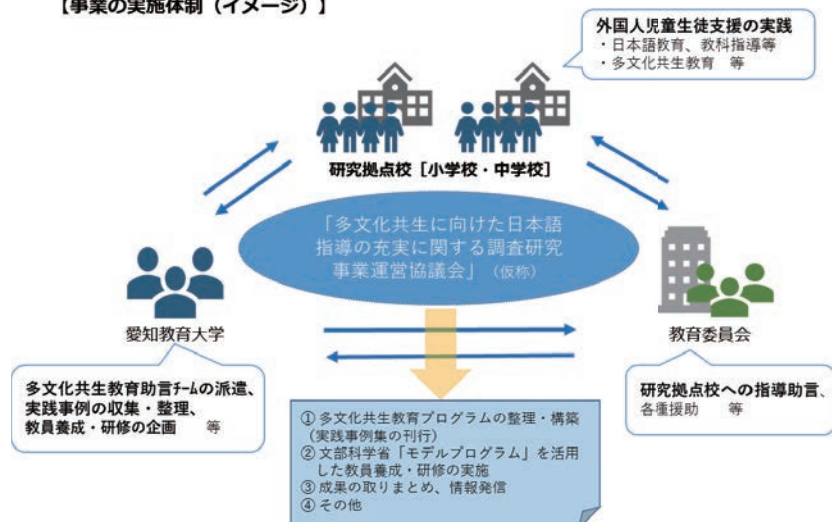
研究紹介

【文部科学省受託事業】

多文化共生に向けた日本語指導の充実に 関する調査研究

日本語教育支援センター

【事業の実施体制（イメージ）】



日本の公立の小学校、中学校、高等学校等における日本語指導が必要な児童生徒数は増え続けており、文部科学省の平成30年度の調査によると、全国で51,126人(外国籍40,755人、日本国籍10,371人)とされています。こうした状況の中、文部科学省では「多文化共生に向けた日本語指導の充実に係る調査研究」を行うことになりました。本学では近隣に集住地域のある大学として委託を受け、調査研究をスタートさせることになりました。

この調査研究が目指す先進的な教育プログラムとは、「日本人児童生徒を含む全ての児童生徒が基礎的な学力を身に付け、多様な文化背景を理解しながら共に学ぶ授業の在り方」というものです。外国人児童生徒への支援だけでなく、「日本人児童生徒を含むすべての児童生徒」に焦点が当てられています。互いの文化的違いを認めあい、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会への足掛かりを教員養成大学で作る意味は大変大きいと感じています。

本学では増加する外国人の日本語指導等に寄与することを目的とし、この4月に国際教育棟に日本語教育支援センターが設置されました。今後は、日本語教育分野と教科教育分野が連携してこの教育プログラムの開発に大学全体として取り組んでいく予定です。

クラブ・サークル紹介

男子ハンドボール部・女子ハンドボール部

ハンドボール部は、男女ともに東海学生ハンドボール連盟1部リーグに所属しており、11月に行われる全日本インカレに出場し勝つことを目標に第一体育館で週4～5日活動しています。最近では全日本インカレに男女とも2年連続で出場しています。学生が主体となって活動することや小学生に教えることなどを通じて、多くのことを学ぶことができています。特に“愛教らしくどのようにして勝つのか”を大切に、チーム運営を行っています。ハンドボールができることに感謝し、これからも精一杯活動に取り組みます。



吹奏楽団

こんにちは! 吹奏楽団は50名ほどの団員が所属しており、夏の吹奏楽コンクールや地域の施設での訪問演奏会、学内でのアンサンブルフェスティバル、3月に行われる定期演奏会に向けて日々練習に取り組んでいます。

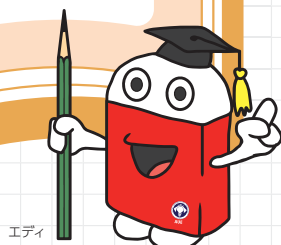
私たちの活動を支えてくださっている学内外の方々への感謝の気持ちを、私たちの音楽に乗せて届けられるように団員同士で切磋琢磨しながら時に真剣に楽しく活動しています。これからも多くの方に私たちの音楽を届けられるように精進していきます。



愛教大 ニュース NEWS



愛教ちゃん



エディ

平成31年度文部科学省受託 「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する 教科指導法研究事業」成果報告会を開催

1月11日(土)、本部棟第一会議室において、「通常学級における学習上の困難さに着目した教科指導のあり方～発達障害の可能性のある児童生徒等に学ぶ」と題し、成果報告会を開催しました。県内教育委員会・教育センター関係者、県内小中学校教員等252人が参加しました。国立特別支援教育総合研究所海津亜希子先生より講演いただき、通常の学級において、異なる学力層の子どもの学びを支えていこうとする学習指導モデルにおける指導やその効果などについて、全国の小中学校での取組事例を交えてお話がありました。通常学級におけるさまざまな子どものニーズに対して指導・支援していくことの重要性を改めて考える機会となりました。



講師の海津亜希子先生

ソフトバンク株式会社と連携に関する協定を締結

2月28日(金)、本部棟第三会議室において、ソフトバンク株式会社と本学との相互連携に関する協定を締結しました。

署名後、後藤ひとみ学長からは「次世代に対応した新しい学習環境を作り、ICT教育を外に発信していきたい。本学の次世代教育イノベーション棟を拠点に、ソフトバンクの協力をいただきその可能性は大きく広がる」とのあいさつがありました。

ソフトバンク株式会社永田稔雄執行役員からは、「ICTを使って皆さんと協力することによって教育改革を推し進める原動力として貢献できればと思っている。子どもたちがより主体的で深い学び、より豊かな生活ができるよう皆さんと考えていきたい」などと話があり、締結式を終えました。

ソフトバンク株式会社
永田稔雄執行役員

「おねんどお姉さん」としてEテレに出演中の ねんどろ岡田ひとみさん来学!

2月2日(日)、本学で「ねんど×かがく つくって学ぼうin愛知教育大学」を開催しました。このイベントは、技術教育講座の北村一浩教授が大阪市の吉見製作所と共同開発した「形状記憶合金LABO」第2弾「ねんどろ岡田ひとみの『おどるパンケーキ』」の発売記念として実施されました。講師として、キットのデザインを手掛け、「おねんどお姉さん」として子どもたちに人気のねんどろ岡田ひとみさんを本学にお招きしました。イベントでは粘土のテクニクを優しく教えてもらいながら、参加者は可愛らしくて美味しそうな粘土のパンケーキを楽しく作り上げました。「粘土をきっかけにさまざまなことにチャレンジしてほしいです」と講師の岡田さんは話してくださいました。

また、吉見製作所では今後もさまざまな科学教室を行っていききたいとのことでした。



岡田ひとみさん

近隣市首長等によるリレー講義を実施

本学が連携協力に関する包括協定を結んでいる近隣5市(刈谷市、知立市、みよし市、安城市、豊明市)および豊橋市の、市長や副市長をお招きし、地方自治の実践に関する特別講義を実施しました。

この講義は、教育ガバナンスコースの2年生向け授業「実践地方自治概論」(担当教員:水谷仁非常勤講師、西尾圭一郎准教授)として開講されました。各講義では、それぞれの首長等が各市の特色、取り組みなどのほか、学生に向けたメッセージを伝えてくださいました。

授業中だけでなく、終了後も積極的に質問する学生の姿が見られ、各市のご協力により学生の今後の学びにつながる大変貴重な機会となりました。



知立市長の講義の様子

教育委員会との相互連携に関する協定を締結 連携する教育委員会は43委員会に

本学は令和元年度に春日井市教育委員会、一宮市教育委員会、瀬戸市教育委員会と相互連携に関する協定を締結しました。これらの締結により、連携する愛知県内の教育委員会は43教育委員会となりました。

今後は、各教育委員会とともに学校教育上の諸課題の解決と充実を図り、教育の総合大学として、さらに地域との連携を深めていきます。

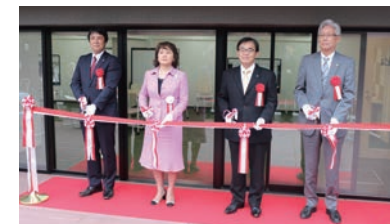


春日井市教育委員会との協定締結の様子

既存施設を多文化体験や日本語教育の場へコンバージョン 国際教育棟・日本語教育支援センター竣工記念式典を開催

3月28日(土)、国際教育棟・日本語教育支援センター竣工記念式典を開催しました。建物の南側にあるオープンデッキを会場として、大村秀章愛知県知事、稲垣武刈谷市長、小浮正典豊明市長らを来賓として招き、本学からは学長、理事が出席しました。

この新棟は、以前は職員用宿舎として使われていたものを、多文化体験の場や留学生・外国人のための日本語教育の場としての活用をコンセプトに、1階から3階を外国人のための日本語教育支援センター、4階と5階を留学生と日本人学生の混住型留学生宿舎へと用途変更して再生したものです。



テープカットの様子

大村知事からは、「愛知県は好況なこともあり、日本語支援が必要な中学生の増加という新たな課題が増えている。愛知教育大学は外国人児童生徒の日本語教育が全学必修であるという素晴らしい取り組みを行っており、地元自治体と一緒に日本語教育支援を進めていきたい」と祝辞をいただきました。



国際教育棟の外観

第2回U-20日彫展で本学学生が入賞

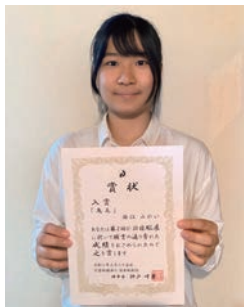
3月26日(木)、日本彫刻会による「第2回U-20日彫展～集まれ! 未来の彫刻家～」の入賞者、入選者の発表が行われ、初等教育教員養成課程 美術選修 2年生の須江みれいさんが入賞しました。昨年実施された第1回U-20日彫展でも、本学の学生がU-20日彫賞を受賞しており、2年連続の快挙となります。

印象に残るような作品にと考えながら制作したという須江さんですが、受賞を受け、「これまでは完成して満足することが多かったのですが、もっと多くの人に見てもらえるような機会を見つけたいと思います」と話しています。

須江さんの作品をはじめ入賞した6作品は、次回開催の日彫展で展示される予定です。



入賞作品「鬼瓦」



須江みれいさん

名古屋市科学館と相互連携に関する協定を締結

1月22日(水)、名古屋市科学館プラネタリウムにおいて、名古屋市科学館と本学との相互連携に関する協定を締結しました。授業の一環としてプラネタリウムが上映された後、本学学生らも出席し、関係者約150人が見守る中、締結式を行いました。

本協定は、本学の学生が科学館の常設展示物を利用した授業案作成、授業実践、教材開発等を大学の授業の中で実施していくことや、科学館においてボランティアとして活動していくことなどで、相互に協力を深め発展することを目的としています。

名古屋市科学館の額満館長からは、学生からの企画やアイデアの実現に協力し、互いに発展していきたいなどと話がありました。



プラネタリウムの様子

AUEチャレンジプロジェクト 「愛教大生による知立市への定住政策提言プロジェクト」が知立市に提言書提出

1月22日(水)、今年度のAUEチャレンジプロジェクト「愛教大生による知立市への定住政策提言プロジェクト」のメンバーが、知立市役所で副市長に提言書を提出しました。このプロジェクトは教育ガバナンス講座の西尾圭一郎准教授のゼミで経済を学ぶ学生17人らが、知立市の「まち・ひと・しごと創成若手職員プロジェクト」と連携して、知立市への移住・定住者の増加のための施策を立案するために共同研究を行ったものです。

西尾准教授は「学生の1年間の努力と取り組みの成果が形になり、知立市の総合戦略に反映されたのは非常に意義のあること。これからも地域の大学として周辺自治体との連携を深めていきたい」と述べています。



知立市副市長に提言書を手渡す
学生と知立市若手職員

海外協定校(ベトナム・ハノイ国立教育大学) からの招へい教員による講演会を開催

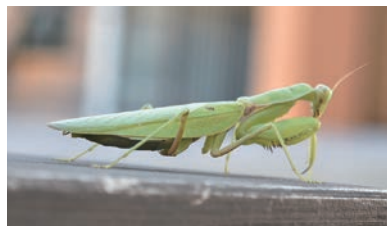
本学の学術交流協定校であるハノイ国立教育大学の講師のNguyen Nam Phuong(グエン ナン フォン)先生をお迎えし、2月20日(木)、本部棟第五会議室において、講演会を行いました。本学は学術研究および職員研修の国際交流を推進するため、毎年海外の交流協定校から教職員を受け入れる「海外協定校からの教職員招へいプログラム」を実施しています。

講演会の参加者はベトナムの教育事情や日本の教育現場との相違点についての話等に興味深そうに耳を傾けました。異文化を理解するとともに他国の大学の現状を知る、双方にとってとても有意義な講演会となりました。



講演を行うNguyen Nam Phuong先生

キャンパスめぐり



本学のキャンパスがある井ヶ谷地区は愛知県刈谷市北部の緑豊かな高台に位置しています。

夏にはまぶしい光とセミの合唱の中、木々が青々と生い茂り、共通棟の緑のカーテンが大輪の朝顔を咲かせます。また、植え込みのマリーゴールドやニチニチソウが鮮やかな色彩をそえます。



今後のイベント予定

11月14日(土)

科学・ものづくり
フェスタ

11月15日(日)

ホームカミングデー

11月28日(土)・29日(日)

秋の祭典

12月13日(日)

冬の子どもまつり

愛知教育大学未来基金へのご寄付のお願い

愛知教育大学は、子どもたちの未来を拓く人を育てる「教育の総合大学」として多くの学生を迎え、送り出してきました。未来へ羽ばたく多くの学生を支援するため、皆様からのご寄附・ご支援をお願いいたします。

特に今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、未来基金より困窮する学生への給付も行っています。ご協力をお願いいたします。

愛知教育大学未来基金の種類

- ・「AUE修学支援基金」 経済的な理由で修学に困難がある本学学生を支援いただくための基金
- ・「教育研究基金」 学生表彰、課外活動、留学生の交流等、幅広く本学学生支援いただくための基金

なお、本学への寄附に対しましては、所得税法、法人税法による税法上の優遇措置を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

愛知教育大学未来基金

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>



愛知教育大学広報誌「あえる AUE Letter」 vol.3 (2020 Summer) 2020年7月発行



国立大学法人

愛知教育大学

AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／愛知教育大学 総務・企画部 広報課 広報・渉外係

E-mail/kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

<https://www.aichi-edu.ac.jp>

